郵便報知新聞錦雲第七号

東京之中内前之百渋茶至葉の中嶋
万吉員が眼の色へ丈年のおとの者の
や行義至見と有楽町の花侯中山
忠成方へ出すややアーグ名の花の
たをあうゆ紅ゆ白ゆクーさ鶴形ちの美ゆる
忠成心をうゆ明暮手活とえくさ
とどこをその嵐とかびくゆ今ゆ憎さが
自倍と戸ゆゆくのくちを御女悲ーさ
親里へかく長章の神のくとえゆどろ
れ眼ゆ元へどかくたくどかゆ口ゆと
免さゆ名ゆゆくゆゆゆ最ゆゆと
心とゆ人明治年六月廿八の夜紛ざれ
邸を抜出親里へ逃かり乗内と見紛ば
青森で睡ゆくゆりくゆ隣目もゆて
ゆくゆゆゆんとひゆんゆ

ゆゆゆゆんゆ

三勝修重

歌川豊国

歌古屋

岩重

版元池田傳兵衛
筆者川上成和